

(社) 東洋音楽学会関西支部 支部だより

Newsletter of the Kansai Chapter, Society for Research in Asiatic Music

第 3 8 号 (2000/07/25)

♣定例研究会のご案内♣

●第200回定例研究会

(国立民族学博物館共同研究会「民族音楽学の課題と方法」と合同)

と き：2000年9月23日(土・祭) 14:00~17:00

ところ：国立民族学博物館第6セミナー室

研究発表

持続するノリ～新野の盆踊りをめぐって

小川 博司(関西大学社会学部)

(民博北側通用口で、「東洋音楽学会定例研究会出席」と告げてご入館ください)

●第201回定例研究会

と き：2000年10月4日(水) 14:00~

2000年10月5日(木) 11:00~16:00

ところ：兵庫県加東郡社町「やしろ鴨川の郷」会議室および上鴨川住吉神社

(1) 研究発表 10月4日(水) 14:00~17:00 於、「やしろ鴨川の郷」

研究発表

石見神楽の現在

藤原 宏夫(兵庫教育大学連合大学院)

上鴨川住吉神社神事舞について

——資料(文献および映像)紹介を中心に

水野 信男

(2) 上鴨川住吉神社神事舞の見学 10月4日(水) 18:00~

10月5日(木) 11:00~16:00

於、上鴨川住吉神社

(研究会開催日が水曜日と木曜日になりますので、ご留意ください)

2000年4月8日(土) 国立民族学博物館特設会場および研究部第3演習室

- (1) 鑑賞 みんなくミュージアム劇場 - からだは表現する『高橋悠治と「糸」』
- (2) 卒業論文・修士論文・博士論文発表会
  - 「関西に根づいた沖縄芸能『エイサー』」(卒論) 法田典子(大阪音楽大学)
  - 「観光音楽の創出 - ペルー・クスコに於ける音楽状況を事例として」(卒論)  
水口良樹(京都文教大学)
  - 「バリのバロン劇 - デンパサル市パンジェル村とタンジュン・ブンカ村を中心  
に」(修論) 大坪紀子(兵庫教育大学)

国立民博主催みんなくミュージアム劇場は、第一級のパフォーマーの公演を通じて、身体表現の技術と可能性をかんがえてみようという企画である。満席となった円形劇場では、高橋悠治氏他の出演により、演奏者のからだ、楽器のからだというテーマによるたいへん興味深い講演と、一弦琴、三弦、箏、笙、打物による現代の曲の演奏を鑑賞した。

法田氏の発表は、全国的な広がりを見せるエイサーに関し、大阪市大正区の「がじまるの会」他を対象にした調査報告とその考察であった。曲目の採詞、採譜、行事の歴史の確認、聞き取り調査から、エイサーがおこなわれる形態の歴史的变化や、沖縄県出身者とその他の人々との意識の違いを指摘された。先祖供養の芸能であったエイサーが、県外へ出た人々の交流のための行事となり、さらに沖縄県出身者以外の人々のあいだでは地域活動や学校行事の一環となっているといった個々の意識の違いが明らかにされた。

水口氏の発表は、ペルーの観光都市クスコにおける音楽が、観光を背景とした状況下でどのように使用されているかを事例として、観光と音楽相互の関係性と、観光音楽の創出に関して考察されたものであった。クスコで観光客向けに演奏される音楽は「ヌエボ・フォルクローレ」と呼ばれるポリビアの曲を中心としたものであるが、これと「ペルー山岳音楽(発表者の造語)」を比較しながら、前者が定着した理由を明らかにされた。その特色として、共通言語をもつ音楽、音楽の西洋化および社会的背景、送り手と受けてのニーズの合致、都市の存在があると結論付けられた。

大坪氏の発表は、バリのバロン劇を対象とし、宗教儀礼との関係を中心とした民族誌の作成と、その音楽的側面や舞踊的側面のみならず、バリ・ヒンドゥー教の宗教観や社会観など多角的視点から考察されたものであった。2年以上の留学期間を経て調査された豊富な諸資料をもとに、舞踊における特徴的動作、音楽との関係、物語展開の詳細な記述がなされた。また、その背景となるオダラン祭祀や様々な儀礼の概要と、バロン、ランダが神格化される過程および、それを介した村々の結びつきを指摘された。以上の考察から、バロン劇の上演はバリ・ヒンドゥー教の宇宙観に結びついたものであると結論付けられた。

♪定例研究会記録♪

東洋音楽学会関西支部第199回定例研究会  
2000年6月24日(土) 大阪音楽大学K号館

報告 上野 正章

研究発表 14:00~16:30

- (1) 1880年代から革命までのロシアにおける「民族楽器」の形成：  
バラライカとドムラを事例として

柚木 かおり

- (2) ポピュラー音楽研究から見た音楽学—その利用(不)可能性

増田 聡

最初の発表は、「民族楽器」について。ロシアにおいて放浪芸人(スコモローヒ)あるいは農民の楽器であったドムラやバラライカが、19世紀の終わりから20世紀の初頭にかけて—つまり革命前の40年間において—ロシア民族の楽器とみなされて行く過程を追った研究である。材料として用いられるのは当時のロシア語文献資料で、論を進めるにあたって援用されるのは、英国において歴史家と人類学者によって提出された「創られた伝統」に関する議論である。精緻な資料調査が際立った発表であった。発表者の柚木氏は今年の夏からロシア留学が決まっており、ドムラについての政府の政策を行政文書から調査し、さらにまた現在のロシアにおける民族楽器をフィールドで調査する予定。文献研究を深め、同時にフィールドワークを組み込むことによって研究が進展することが期待される。質疑応答でも問題になったスコモローヒについて、何か決定的な情報を望みたい。

次いで行われたのが増田氏による、ポピュラー音楽研究の観点からの現代日本の音楽学についての考察。まず、最近の日本の音楽学における問題意識の拡散化、共通言語の欠如が指摘され、西洋芸術音楽に伴って発展してきた、テキスト(音楽それ自体)を特権的に取り扱う伝統的な音楽学が、もはや学問の現状にそぐわなくなっていることが示される。それに対して提示されるのが、カルチュラル・スタディーの影響下で進展してきたポピュラー音楽研究である。そこでは広い経済的・制度的文脈の中で音楽が生産され、一方聴取者は能動的にそれぞれの社会的文脈の中で音楽を受容し、両者の間のコミュニケーションは問題にされない。刺激に富んだ議論である。特に興味深く思った質疑応答は、西洋芸術音楽にポピュラー音楽の研究方法を応用する可能性についての質問であった。音楽の作り手と受け手に共通するコードを想定するこの種の音楽にポピュラー音楽の研究方法を用いることは困難を伴うらしい。とはいえ、日本古典音楽や、西洋芸術音楽がますます幅の広い聴衆の興味を呼び起こしている今日、ポピュラー音楽研究の成果を多様な音楽の研究に活かすことは、新たな研究の視座を生み出すに違いない。

奇しくも両方の発表とも、他の学問ジャンルで生み出され、発展してきた方法論が重要な役割を果たしていた。これらのことは、21世紀の人文科学における学問領域の再編成に示唆を与えるものである。

♪企画と情報♪

◎小・中学生のための世界の民族楽器紹介シリーズ#6

おはなしとデモンストレーション演奏『小・中学校教師セミナー』

セミナーの内容：「カリング族の社会と音楽のあり方」「カリング族の楽器製作」「カリング族音楽の演奏」講師：アーネル・バナサン他

8月22日(火) 10時~17時 ジーベックホール

◎「関西盆踊り日程情報」は下記のホームページへどうぞ!

<http://www4.plala.or.jp/bonodori/>

♣第201回定例研究会によせて♣

国指定重要無形民俗文化財・上鴨川住吉神社神事舞の宵祭と本祭のすべてを見学するため、研究会が2日にわたりますが、そのいずれか一日に参加されてもけっこうです。バスやJRをご利用になっておいでいただく場合は、関西支部事務局で送迎をおひきうけいたします。また、「やしろ鴨川の郷」でご宿泊をご希望の方には、事務局にご連絡くだされば、あらかじめパンフレットをおおくりしますので、ご自身でご予約ください。その場合も神社までの送迎は事務局でおひきうけいたします。なお参加者数把握のため、研究会に参加ご希望の向きは、参加日、交通手段（自家用車またはJR／バス）、送迎希望の有無、ご自身の連絡先などをハガキまたは電子メールで、9月25日（月）までに事務局宛ご連絡ください。ご連絡いただいた方には、事務局から個別に対応させていただきます。

♣関西支部からのお知らせ♣

●関西支部定例研究会への発表申し込み方法について

関西支部では、定例研究会での会員相互の活発な活動を期待しています。研究発表等は下記の関西支部事務局までお申し込みください。その際、発表の種別（連続講座「伝承を考える」、研究発表、資料紹介、研究演奏、調査報告など）、題目、使用機器、発表希望月、所属、氏名、連絡先を明記してください。なお、今後の定例研究会の開催予定ですが、例年の11月分を10月にくりあげた関係で、今回は次期役員の担当で来年2月以降となります。

●入会申し込み方法・住所の変更について

入会ご希望の方は、80円分の郵便切手を同封し、下記の学会本部事務所へ入会案内・申し込み用紙をご請求ください。住所等の変更につきましても同事務所までお知らせください。〒110-0001台東区谷中5-9-25 第2八光ハウス201号

(社) 東洋音楽学会 ☎03-3823-5173 FAX 03-3823-5174

電子メール LEN03210@nifty.ne.jp

---

(社) 東洋音楽学会関西支部

〒673-1494 加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学芸術系教育講座 水野

研究室気付 ☎&FAX 0795-44-2261 FAX専用0795-44-2259

電子メール mizuno@art.hyogo-u.ac.jp